

■ 本当は素晴らしい能力を持っていた…

フロイトは、4才までに潜在意識が固定され、それ以降は潜在意識に基づいて行動するので変化できないのだと言っています。幼い頃に誰かから言われた言葉が人生において大きな影響を与えているということがわかります。あるスーパー発明家の話です。彼は15歳の頃に受けた試験によって教師から劣等生というレッテルを貼られるようになりました。それからというものどんな仕事をしても失敗し自分を劣等生だと信じるようになりました。彼は幼い頃から親に「お前なんか生まれなければ良かった。」とずっと言われてきましたが、そうではないと思って頑張っていました。ところが15歳の思春期の時に先生から言われた言葉が幼い頃に言われた言葉と結びついてしまったのです。4才までの記憶は一度4才で消されます。潜在意識というのはそれまでに受けた傷の記憶をいっさい消してその時点でリセットされるのですが、脳には非常に色濃く残されます。そして、思春期を迎え親から離れて自分で生きていこうとする成長の時に親ではない誰かから言われる言葉は潜在意識に土台を与えるため非常に大きな影響を与えます。結果、彼は自分は駄目だと信じたのです。ところが36歳の時に偶然無料でIQテストを受けられる機会があり、自分はどれだけ駄目なのかを確認するために受けてみたところ161もあったのです。彼は天才だったのです。学校のテストの記憶に関してだけ問題があっただけで、目の前に入ってきた情報を処理する能力はとて強かったのです。彼は自信を取り戻しスーパー発明家になりました。

■ 能力をよく知っていた飼い主…

草地の穴に落ちた車を馬で引っ張り上げることに成功したという出来事がありました。草地にはまってしまった車は車では引っ張れません。同じ車なので同じようにはまってしまいます。けれど馬はヒズメがあるという特徴を馬の飼い主はよくわかっていたので馬を使って引っ張り上げることに成功しました。

■ あり方を変えなければ…

私たちは「自分」があるので心をなかなか一つにすることができません。文化は人生に大きな影響をもたらします。日本では大学を出るべきだという文化があります。その理由は大いにして良い会社に入り、結婚して家を建て安定した生活を送るためというものです。ところが、他の国では違います。私達は自分の国の文化がすべてだと思っているので間違っています。すべての人が知識を身につければいいというものではありません。勉強することで本来の才能が細って行く場合があります。本来、その人の才能を伸ばすためにしておかなければならない時間に他のことをさせられるというのがまさに日本の教育です。同じことを皆にさせるのです。例えばずっと絵を描いていた方が良い子がいっても時間割に沿ってやめさせ次の勉強をやらせます。その子は集中してもっと描きたいのですが決められた時間しかないのです。他の子にはない一日でも描いていられる集中力を持っていたとしても時間区切りで終わらせてしまう訓練を受けてしまったら集中して描いていられなくなっていきます。その子にとって最善は違うのです。私達は自分の在り方を変えなければなりません。

ピリピ1章は試練の中の喜び、2章は奉仕の中の喜びでした。奉仕とは私達の生き方そのものでした。その生き方は「自己中心や虚栄からすることなく」(2:3)とあります。虚栄とは「自分は人よりも良く見られたい」「自分は立派だ」「人よりも幸せになりたい」…そういう気持ちで悪魔が一番好む言葉だと聖書は言っています。自己中心とは「自分さえ良ければ」という心であり、日本に蔓延した心だと言えます。それをやめてへりくだって「互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい」とありますが、これは自分は駄目で相手は素晴らしいのだと思うことではありません。前述の馬の話と同じです。飼い主が馬の特徴をよく理解しているように、私達が自分をよく知り、理解するならば人を理解できるということです。聖書は教会を一つの体だと言っています。神様は私達一人一人を違うように造られました。それぞれが特性を知っていることが大切です。

■ 自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。(ピリピ 2:4)

人は人に触れて接してみても初めて自分はこういうことをやると嬉しい、喜びがある、自分にはこういう能力があったのかということになり恵まれるのです。自由に泳いでいるカマスの水槽に透明の仕切りを入れると何度もぶつかるのでその仕切りの向こうには行かなくなります。その後、仕切りを取ってもあった所より向うには行きません。エサを入れてもです。行けないと思っているからです。ところが、そこに新しいカマスを1匹入れるとこのカマスは仕切りのあった場所は関係なく自由に泳ぐので行けなくなっていたカマスも一緒に行くようになります。同じように私たちは自分を勝手に閉じ込め、その領域で生きているだけなのです。

キリストは人ができなくなった「愛する」「誰かのために生きる」ということを教えるために神のあり方を捨てて私達と同じ肉体をもって人としての性質をもって来られました。そして、裏切者、差別されている人、自分を小さくしている人のところへ行って愛し、知識に高ぶり傲慢になっている人達のところへ行って愚かであることを教えました。その人を見失っている世界を見せ、「愛する」「誰かのために生きる」ことはできるのだということを教え、価値観を変えたのです。

■ あり方を捨てるために「従う」

生まれつき両腕両足がない牧師ニック・ブイチチさんは、自分がこのように生まれてきたのは「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。」という御言葉を信じ、価値観が変わりました。彼が行くだけで勉強ができなくなっていた子ども達が力づけられ、劣等感に陥っていた子ども達が一瞬にして治るということが起こっています。これが神様を信じた人の人生です。私達も人と比較して自分を駄目だとすることをやめなければなりません。神様に愛されていること、今思っている自分とは違うということを感じるに従うことです。私達は神様の作品なので良い行いのスイッチは造られた時から組み込まれています。このスイッチはあなたが決めつけたあり方を捨てた時にみつけられます。自分はこうなんだと決めつけて狭い中で生きているうちは仕切りを越えられなくなったカマスと同じで本来泳げる領域へは行けません。神様が与えて下さっている能力を知って次のステップに行くことができれば、草地の穴にはまった車を助けたあの馬のように、ニック牧師のようになるのです。

そしてあなたにかかわる人はあなたによってその能力が見出されていくのです。それゆえにあなたは置かれた場所でリーダーと呼ばれるようになるのです。そして、リーダーというフォロワーとなって多くの人を助けるのです。私達は神様の作品であることを知りスイッチを見つけましょう。

■ 祈りましょう…

神様、私を見つけてくださってありがとうございます。

私が決めつけたあり方からあなたが造ってくださった本当の姿に帰ることができるために痛みをすべて引き受けて十字架にかかって下さり、幸せになれと言ってくくださったあなたの愛を感謝します。

目を覚まして自分のあり方を捨て、神様が造られた本当の自分を見つめることができるように導いてください。

(要約者: 全本みどり)

(2021年10月24日)